新 会員の自慢

山から海までの出会い

鈴木ひかり hkr-suzuki@ctie.co.jp

株式会社建設技術研究所

1．はじめに

今回『新 会員の自慢』を担当させていただくことになりました，株式会社建設技術研究所 環境部の鈴木と申します。

前号で執筆された山田夏希様，そして編集委員長の岡浩平先生よりご依頼を賜りました。大変貴重な機会をいただき，御礼申し上げます。まだ入社1年目で右も左もわからない状況ではございますが，今回は自己紹介と業務について執筆させていただきます。

2．私の経歴について

環境を専門としている方には馴染みのある話かもしれませんが，私も幼い頃から森に出かける機会が多く，イベントや体験教室が大好きな常連の子どもでした。高校生の頃には「フィールド活動が楽しそう」という安直な理由から地学部へ入部し，自然環境を題材に研究したいという思いが芽生えました。文化部でありながら，春は山へ水晶採集，夏は県外で鉱物採集，秋は毎週川を歩いて露頭を堀り，冬はその考察と発表に取り組むという活動で，当時は勉学との両立に悩む運動部のような泣き言を言っていました。しかし進路を考える際に，やはりフィールド活動は楽しいことに気づき，そこで得た材料を広い視野で考察し，成果としてまとめる自然環境分野の研究の流れに興味が湧きました。

地学部で登った山の一つに百名山の「鳥海山」があります。鳥海山からは，海，田畑，街，山がとても近い立地に並ぶ，自然と人の営みが溶け込んだような美しい景色を望むことができます。その後，縁あって山形大学農学部に入学し，鶴岡キャンパスで温かい人々にお世話になりながら充実した日々を過ごしました。在学中も鳥海山には何度も登りましたが，初めて目にした時の景色と感動は，今も鮮明に覚えています。

大学・大学院では人と森の相互関係を考える森林影響学研究室に所属しました。研究テーマを決める際，当初は憧れの高山域で研究したい気持ちに縛られ，なかなか方向性を決定できずにいました。そのような中で改めて視野を広げて調べているうち，台風被害により藪化が進み，衰退の危機にある「鳥海ムラスギ」という保護林の存在を知りました。本来守られるべき保護林の現状に問題意識を抱き，「天然スギ後継樹の生育動態」というテーマで研究を行うこととしました。

大学院では訳あって学部時代の研究テーマは継続できませんでしたが，森林管理への問題意識から，深刻な状況にある庄内海岸林を対象に研究しました。全国的に海岸林の造成・管理は，戦後安定期にあると捉えられることが多いものの，近年は管理不足やマツ材線虫病等により，甚大な被害が生じている地域もあります。指導教員の菊池俊一先生には，外部活動や行政との関わり等も含め，庄内海岸林が抱える深刻な状況をご教示いただき，「庄内砂丘海岸林の地形と林分構造が飛砂・飛塩防備機能に与える影響」というテーマで研究を行うこととしました。

本研究は大きく3つの柱から構成され，①海岸の前線である砂丘の地形勾配が海浜植生や飛砂動態に与える影響調査，②海岸林の立木密度が飛砂・飛塩捕捉効果に与える影響調査，③上記調査結果を踏まえた風洞実験での較正と，砂丘地形と立木密度の因子が海岸汀線から海岸林後端まで連続するベルトの飛砂動態に及ぼす影響について考察しました。結果，砂丘地形と立木密度の適正な管理によって飛砂・飛塩捕捉効果が期待できることが示唆されました。幅広い視点で自然環境を捉えたいと考えていましたが，振り返ると想定よりも多角的な研究になったと感じております。

写真-1 鳥海山からの眺望

写真-2 庄内海岸の現状

学部生の頃は，自然の美しさや楽しさを人に伝える仕事に就きたいと考えていました。しかし森林管理についての研究を重ねる中で，自然環境が抱える多くの課題に向き合い，その解決策や意義を社会へ伝えることこそ重要ではないかと考えるようになりました。就職活動では非常に悩みましたが，最終的に自然と人の調和について取り組める建設コンサルタントへ就職しました。

3．株式会社建設技術研究所について

私が勤務する（株）建設技術研究所は建設コンサルタント業界に属し，インフラに係る計画，調査，維持管理等を担う

会社です。その中で私は環境部に所属し，河川，湖，道路，森林，海岸等を対象に，生物調査，市民との合意形成，グリーンインフラの計画など幅広い業務に携わっています。業務では都市域を対象とした案件が多く，私は都市域の自然環境の知見に乏しいため，日々研鑽を重ねております。

前述のように経験が浅いため，今年度活動した弊社の取り組み「ドボクルーズ 江戸東京・川のなぜなぜ舟めぐり」について紹介させていただきます。これは一般参加者を対象に，若手技術者が江戸から続く伝統や文化，歴史，自然等をクルーズで紹介する活動です。複数あるコースのうち，私は芝浦コースを担当し，主に東京湾のまちづくりや埋立ての歴史，干潟や海の生きものについて案内しました。技術者としての経験は未熟ですが，この活動を通して専門的な内容の伝え方や柔軟な対応，わかりやすい資料構成など，技術者にとって基本的ながら重要な点を身をもって学びました。皆様も機会があればぜひご参加いただけると幸いです。

写真-3　舟めぐりの様子（芝浦コース）

４．日本緑化工学会との関わり

本学会は，学生から社会人まで幅広い分野の方々と出会える，人とのつながりが深い学会だと感じています。初めて大会に参加した際は学生で知り合いもおらず不安でしたが，多くの方に声をかけていただき，とても嬉しかったことを覚えています。大会の研究集会では，若手技術者や学生がグループワークで議論できる機会も設けてくださり，多くの学びと刺激をいただいております。

また，本学会には「海岸林・沿岸域緑化研究部会」があり，専門的なお話や助言をいただける方がいらっしゃることも非常にありがたく存じます。その他にも幅広い部会と専門家の方々がおり，「緑化」という一つの大きな課題に対して幅広い視点から議論できる点に大きな魅力を感じております。

５．好きな自然について

私は地域の自然と人のつながりを感じることが好きで，プライベートでも山から海まで様々な場所を訪れています。最近訪れてよかった場所を二つ紹介いたします。

一つ目は尾瀬です。人生で一回は尾瀬の山小屋で働いてみたい思いがあり，学生時代に「山の鼻小屋」で働かせていただきました。それ以来，尾瀬の虜となり，群馬・福島・新潟それぞれの登山口を巡り，麓の各村の個性や暮らし方に大きな魅力を感じています。尾瀬は自然保護発祥の地であり，古くより開発の歴史の中で試行錯誤しつつ，人を惹きつけ，自然保護の在り方を次世代に継承する仕組みが自然と根付いているように感じ，訪れる度に感銘を受けています。

二つ目は「みちのく潮風トレイル」（蕪島～種差海岸，浄土ヶ浜）です。高山植物が咲き誇る海岸など，多彩に移り変わる景色を楽しみました。今年は福井（氣比の松原），湘南，宮城の海岸林も歩きましたが，地域ごとに立地要因や求められる海岸林の機能も違うため，学びながら見学しています。

祖父が三陸の漁師だったこともあり，東日本大震災の爪痕を目にし，自然の残酷さも噛み締めました。地域ごとに復興の在り方も異なり，未だに建設中の防波堤や更地，規模が半減した市場等を見つつ，今後どのような街を目指すべきか極めて難しい課題が残っていると感じております。

地方では，高齢化等により自然や人々の文化が失われつつある課題があると思います。業務ではもちろん，プライベートでも何らかの形で貢献できるようになりたいと思っております。

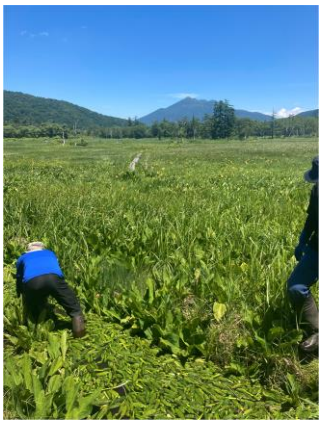

写真-4　尾瀬の水芭蕉刈り

写真-5　青森県 中須賀海岸

６．おわりに

拙い内容となり恐縮ですが，本コラムを通じて皆様と少しでもつながる機会ができれば幸いです。

未熟ではございますが，日頃より本会員の皆様から多くのことを学ばせていただいている立場でございます。学生時代の研究も未だ投稿できておらず，知識を提供できるように精進いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

参考資料

1) 鳥海ムラスギ林木遺伝資源保存林，東北森林管理局ホームページ. https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/apply/publicsale/yuri/100405-3.html

2) 出羽庄内公益の森づくり事業，山形県ホームページ. https://www.pref.yamagata.jp/337050/syounaimoridukuri/index.html

3) ドボクルーズ® 江戸東京・川のなぜなぜ舟めぐり，建設技術研究所ホームページ. https://www.ctie.co.jp/news/sustainability/2025/20250804_1542.html